

登録コード	E2423900	開講年度	2026				
授業科目	器楽アンサンブル				担当教員	齊藤 忠彦	
英文授業名	Instrumental Music Ensemble				副担当		
単位数	1	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・4時限	対象学生	3年生
講義室	教育N404		授業形態	演習	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				合奏を通じて音楽的価値を共有することについて考え, その上で協働するために必要な他人への思いやりやアプローチの方法等、音楽を演奏する上での倫理観を身につけることができるようになる。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				音程やリズムを合わせる技能を演習を通じて学び、演奏者同士の関わり合いの中で合奏を組み立てることのできる能力を養うことができるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	楽器の仕組みを理解して、基礎的な奏法を身に付ける。 音程やハーモニーを整える過程から、場面に適した方法を理解する。 授業構成メンバーに合わせた編曲を行い、異なる種類の楽器とのアンサンブル能力及び構成力を高めていく。						
(5)授業計画	(3) 授業計画 第1回：ガイダンス、人間と楽器 第2回：学校における器楽アンサンブルの歴史とその扱い 第3回：小学校における器楽アンサンブル 第4回：中学校における器楽アンサンブル 第5回：リコーダー、鍵盤ハーモニカを中心とした器楽アンサンブル（基礎） 第6回：リコーダー、鍵盤ハーモニカを中心とした器楽アンサンブル（演習） 第7回：打楽器を中心とした器楽アンサンブル（基礎） 第8回：打楽器を中心とした器楽アンサンブル（演習） 第9回：吹奏楽で扱われる楽器を用いての器楽アンサンブル（基礎） 第10回：吹奏楽で扱われる楽器を用いての器楽アンサンブル（演習） 第11回：自由な楽器を用いての器楽アンサンブル演習（アレンジを含む） 第12回：自由な楽器を用いての器楽アンサンブル演習（バランス、ハーモニー等） 第13回：自由な楽器を用いての器楽アンサンブル演習（ダイナミクス、フレーズ等） 第14回：演奏発表、筆記試験、授業アンケートほか						
(6)成績評価の方法	成績評価の考え方は、次の通りである。 ・器楽に関わる毎回の小レポート（主に知識等を問う） 20点 ・器楽アンサンブルに関わる技能 30点 ・器楽アンサンブルに関わる思考力、判断力、表現力など 30点 ・授業全体を通しての筆記試験 20点 得点率による評価規準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可						
(7)成績評価の基準	() 器楽に関わる知識があり、() 器楽アンサンブルに関わる技能が高く、() 器楽アンサンブルに関わる思考力、判断力、表現力等が高く、() 全体を通しての取り組みの状況が卓越していれば、「卓越している」。 () から() の4項目がほぼできていれば「かなり上にある」。3項目までできていれば「やや上にある」。3項目までほぼできていれば「合格水準にある」。						
(8)事前事後学習の内容	器楽アンサンブルの演習においては、より完成度が高くなるよう事前事後に練習しておくこと。グループ学習で積極的に自らのアイデアを発表できるよう考えをまとめておくこと。 この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、30時間以上の時間外学習が必要となります。						
(9)履修上の注意	楽譜の購入で個人負担が生じることがある。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	saitota@shinshu-u.ac.jp（齊藤）						
【教科書】	資料・楽譜は必要に応じて配布する。						
【参考文献】	適宜、紹介する。						